大阪市立

森之宮（もりのみや）小学校

郵便番号	536−0025
所在地	城東区森之宮1丁目6−64
電話番号	(06)6967−7811
FAX	(06)6967−4661
校長名	山内 伸作

【 概 要 】 昭和54年「大阪市立森之宮小学校」として開校する。校区内には、医療関係の施設やJR西日本・大阪メトロの建物があり、大阪市の都市機能を支える重要な役割を担う地域に学校がある。本年、校区内に大阪公立大学が開校予定である。

【 校 訓 】 「こころとからだをきたえ　たくましく」

【めざす子ども像】 「深く考える子・仲よく思いやりのある子・健康で明るい子」

【教育目標】 「子どもの思いに寄り添い、個に応じた可能性を育む教育を創造する」

【学年・学級編成】

1年	2年1組	2年2組	3年	4年	5年	6年	ひまわり	合計
28	19	19	25	32	22	25	(13)	170

【 沿 革 】 昭和54年4月1日に開校、同月28日に開校式典を実施し、この日を創立記念日とした。平成30年11月には創立40周年記念式典を行った。本年で創立47年を迎える。本校の特色として、平成21年6月から運動場全面芝生化、通級による指導を自校通級のみならず他校通級も行っている。

運営に関する計画《年度目標》 （全市共通目標、☆は方策）

【安全・安心な教育の推進】

○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R.6　79.8%)

○ 校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

○ 校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

☆「いじめについて考える日」「なかま集会」「あいさつ運動習慣」「集団活動」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を53%以上にする。(R.6　52%)

○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。

○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。(R6．65%)

☆「教員全員が年1回以上の校内研究授業実施」「協働学習」「体づくり」「健康や食についての学び」

【学びを支える教育環境の充実】

○ 学習用端末を活用した学習を毎日実施する。授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。(R6．65%)

○ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

☆「学習用端末を活用した活動を毎日実施」「働き方改革の推進」

大阪市教育委員会では、令和六年度「全国学力・学習状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」については、調査参加学年が単学級の学校の校長は、調査結果及び調査結果から明らかになった現状等を公表しないことができるものとしており、本校では、平均正答率を含む調査結果は公表いたしません。

令和６年度　全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の概要

調査人数が少人数であるため、個々の担うポイントが大きい。そのため、平均値のみで児童の体力・運動能力、運動習慣等の傾向を判断したり、経年比較したりすることは困難である。男女ともに、全国と比べてＴ得点（得点の平均50、標準偏差10の正規分布に変換したときの値）は高い。実技別に見ると男子はソフトボール投げ、女子は反復横跳びに課題が見られる。

【これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題】

本校では体育科の学習で、毎回、十分な運動量の確保をしている。また、冬の耐寒かけ足、なわとび等の取り組みをし、児童の体力・運動能力の向上に取り組んでいる。水泳や耐寒かけ足等は低学年から距離・タイムなどの記録を残している。自己の記録の伸びを計るものとし、“記録更新”と“友だちと協力する喜び”を大切にしている。体育の授業は「楽しい」と答える児童が多いが、休み時間等に外遊びをしない児童がいることも実情である。日々体を動かして遊ぶことの大切さと魅力を伝えていく必要がある。

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科、算数科ともに全国平均を上回っている。基礎的な知識（語彙、計算）を反復することで、養うことができた。しかし、記述式の問題では、文章の関連を考えて書くことができる児童とそうでない児童の二極化が見られた。これは、毎年の課題である。この要因を分析すると、①「情報を読み取り、要約すること」②「自分の考えを整理すること」③「自分の考えを他者と話し合い、交流すること」④「自分の考えを表現すること」である。国語科の説明文、算数科のデータの活用、理科の観察や実験、社会科の資料などから、グラフや表の情報を読み取る力を身につけていくことが課題といえる。総合的読解力の学習も同時並行して取り組んでいくことが重要である。

【これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題】

成果
- 児童が自分の考えを分かりやすく伝えるだけでなく、話し合い活動を数多く取り入れ、友だちの意見や考えを聞いて、考える機会を多くしている。
- 自分の意見と友だちの意見を聞いて新たに分かったことをノートにまとめることで、語彙力の育成に努めている。
- 一人一台端末を使い、「深い学び」につなげるため、児童にとって理解が深まる工夫を重ね、考えを共有するなどを行い、自分の力で探求していく学習を増やしている。

課題
- すぐに答えにたどり着くようにするのではなく、考えた過程を書いたり、言葉にしたりする機会を増やし、見通しを持たせることに留意した授業を行う必要がある。

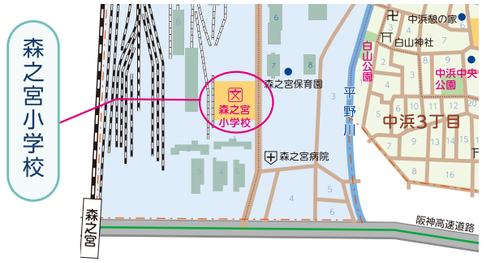
学校のアピールポイントなど

○ 縦割り班活動

小規模校の特性を生かし、本校の特色でもある縦割り活動をさまざまな場面で行っている。低学年は高学年の活動を見本とし、高学年は低学年を思いやる心を育成している。特に、高学年がリーダーシップを発揮し、グループをまとめる経験を通じて責任感や協調性を養うことにつながっている。学校全体の連帯感を強化し、よりよい学校環境を作っている。

・互いに認め、高め合う集団
・リーダーシップとフォロアーシップの育成
・「あたりまえ」のことをあたりまえに行う力

○ 芝生の運動場

本校には、ひと際目を引く、大阪市一大きな芝生の運動場がある。子どもたちは、体育の時間はもちろんのこと、休み時間にもふかふかした芝生の上を走り回っている。大きなけがも少なく、安心して遊ぶことができている。放課後には野鳥の姿を見ることもでき、心にゆとりを与えている。

学校案内図 （18ページもあわせてご覧ください）